

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2440 号

Stability of Intrinsic Rhythm in Pacemaker-Dependent Patients During Pacemaker Replacement: Can We Predict the Need for Temporary Pacing?

(ペースメーカ交換時における自己調律の安定性は術前に予測可能か?)

木村 友紀 (きむら ゆき)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

電池消耗によるペースメーカ交換時に自己調律がない、または不安定なため一時的ペーシングを必要とする場合がある。本研究の目的はペースメーカ交換時に安定した自己調律が得られるか否かを術前に検討して、一時的ペーシングの必要性を予測できるかを検討することである。

対象は 2005 年 9 月～2016 年 12 月の期間に当院で電池消耗のためペースメーカ交換術を施行した連続 105 例である。それらの患者においてペースメーカ交換時の自己調律の安定性と臨床的因子 (年齢、性別、房室ブロックか洞不全症候群か、ペースメーカ植え込み後年数、基礎心疾患、抗不整脈薬の使用) および直前のペースメーカ外来における自己調律の有無、について後ろ向きに検討した。

105 例のうち 1 例が徐脈による Torsades de points の既往があったため除外とし、104 例の患者で評価した。ペースメーカ交換手術時に安定した自己調律が得られず 19 例 (18%) で一時的ペーシングを必要とした。一時的ペーシングは洞不全症候群に比べ、房室ブロックの患者でより多く必要であった (84% vs 48%,  $P=0.0044$ )。さらに、一時的ペーシングの必要性は直前のペースメーカ外来における自己調律の有無と有意に相関した (89% vs 24%,  $p<0.0001$ )。直前のペースメーカ外来において自己調律が認められない場合、一時的ペーシングを必要とする感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率はそれぞれ、89%、77%、46%、97%であった。

ペースメーカ交換術前にペースメーカ外来で自己調律を認める場合は、ペースメーカ交換時に一時的ペーシングが不要であるという良好な予測因子 (97%) となる。このことより、ペースメーカ外来で自己調律を評価することは、交換手術時の自己調律の安定性を予測し、一時的ペーシングの必要性を検討する上で有用である。